



発行所 青山同窓会 新潟市関屋下川原町二 新潟高校内 印刷所 オリオン印刷機

年頭ごあいさつ 会長 鍵富清一郎



あけましておめでとうございます。今年は春から世の中が騒然として、値上りだとか、物不足とかで暮しくいようです。しかし、くよくよしては始まりません。こういう年こそ、同窓あい協力し助けあって、元氣よくがんばってゆきましょう。皆さんのご発展とご健康を、今こそ、特に祈りして、年頭のごあいさついたします。

ごあいさつ

幹事長 樋口均

同窓会の皆さん、明けましておめでとうございます。

昨夏香港に於て盛大に挙行されました青山同窓会席上幹事長就任を指名されました。

もとよりその任でない事は、自身十分承知いたしておりますが、徒らに固辞するのも失礼と思ひ、齋藤前幹事長のような適任者を早く見つけていた、くまでの間お手伝い申し上げる事にいたしました。

幸い有能な新役員の方々から事

各期幹事の方々の御努力もさる事乍ら会員諸兄の同窓会を盛り立てようとの御熱意の賜と深く感謝申し上げます。

今後とも御協力いたしましてお願い申し上げます。

終りに皆様の御健勝御多幸をお祈り申し上げますと共に、各職域・事業で一層の御活躍を御期待申し上げます。

菊の花華る十一月十六日上越市内の長養館で上越市内に在住する新潟中学、新潟高校卒業生で組織する「上越青山同窓会」が開催さ

れました。 判明する会員数は二十八名で当日参加者は十五名でした。当日の会場は旧高田市の中心部にあり、

総会の記

恒例の香港で

毎年七月一日の創立記念日を祝して開かれる青山同窓会総会が今年恒例となった、会場「香港」で約七〇〇名の会員の参加を得て、盛大に開かれた。

前幹事長齋藤氏の後任の人選が急がれていたが、多数会員の推せを受けた樋口均氏が鍵富会長の指名で、満場一致の承認を得て、めでたく新幹事長に就任。益々の

総会議事がとどこおりなく終り、懇親会。 毎年の「香港」は青陵健児を讃える校歌、応援歌が各期毎に力強く歌われ、会場は割れんばかり。

「いや、まだです」 「よし、それじゃ、俺が世話するから心配すんな。明日俺の社に電話せや……」 「あなたはお茶大か？優秀な女子だな、卒業後は？」 「先生になるつもりです」 「男のことで迷ったら相談にこいよん」

東京八重州口大丸デパート、ルビー・ホールの十月二十六日、昭和四十八年度総会は約二百名になんなんとする会員を迎えて、午後六時三〇分開会。 旧会長の山添直氏の離任挨拶で始まり、新旧役員交代。新会長に木村逸郎氏が就任。新役員紹介。

次いで、本部から上京された阿部藤策副会長から、八十周年記念事業への協力に対する感謝の言葉を述べ、東京青山同窓会の繁栄と、相変らぬ協力を願うことがあった。 終つて来賓として御出席下さつ

た石川健四郎元校長（相模原市在住）から学校にまつわる思い出話の御披露があり、懇親会に入った。 今回は若手会員の参加も多く、七十五回以降の会員は約二十名に達し、大学在学中の会員も約十数名を数えた。

「はい、」 一つ果てるともなく先輩、後輩の楽しい談笑。この店だけはピルの谷間で素朴なぬくもりを感じさせていた。 (60回上杉記)

会も終りに近づいた頃、金山常吉、益子恒徳両氏（六〇回）の提唱で、若手会員との交流を目的と

戦時中は軍人の佐官以上の人々の会合によく使われた所で、庭の美しさは上越では上位に属しております。集る人々、それ／＼に往時をしのび応援歌、拍手など盛会のうちに終り、校歌を斉唱し、青山同窓会の発展と諸兄の健康を祝して、万才三唱、散会いたしました。

尚忘年会、新年会、花見の会など大いに集ることを約束して二次会場へと向いました。

上越市内に在任の方でも幹事が判明しないものも大ぜい居られると思ひますので、今回案内もれで在任の方は左記へ住所氏名をお知らせ下さるようお願い致します。

上越青山同窓会

上越市内に在任の方でも幹事が判明しないものも大ぜい居られると思ひますので、今回案内もれで在任の方は左記へ住所氏名をお知らせ下さるようお願い致します。

幹事 57回生 小島 芳 郎 新潟県上越利水事務所長 電話〇二五五一四一四一〇一

尚忘年会、新年会、花見の会など大いに集ることを約束して二次会場へと向いました。

上越市内に在任の方でも幹事が判明しないものも大ぜい居られると思ひますので、今回案内もれで在任の方は左記へ住所氏名をお知らせ下さるようお願い致します。

高橋 満先生

栄えある

パーマー賞を受賞

本校英語科、高橋満先生が英語教育に尽した業績をかわれて、昭和四十七年度パーマー賞のただ一人の受賞者に選ばれ、昭和四十八年十月十二日、東京での語学研究大会で表彰を受けられた。

パーマー賞はイギリスの著名な音声学者、文法学者であるMr. R. Palmer が財団法人語学教育研究所の所長（一九三三—三

六）として来日して行なつた、英語教育改善のための目ざましい活躍と、その業績を記念して設けられた賞である。

この賞は、英語教育の改善面で、功績をあげた個人または団体に、毎年一回一人または一団体に限りて与えられる。

高橋先生は新潟大学教育学部を卒業されてから教職の道に入られ、

成功し、帰路、八千メートル以上の

の体験を経て、無事、帰国された。多忙の同氏は十一月十日に瞬時

をきいて、母校を訪問、校長室に於いて壮筆を報告された。

以下はまたまた校長先生と同席させていただいた、山岳部元顧問飯塚良彦先生及びOB石田瑞穂との対談の要旨である。

午前十一時頃に標高八千五百メートルにある前回のイタリア遠征隊の最終キャンプのあとに到達しました。ここにはテントの残りや、酸素の残りがあり、帰路に利用できるとは思いません。

飯塚 この時間からの下りは、前例がないでしょう。

石黒 今までは、我々の出発したアタックキャンプの上に、もう一つキャンプをすすめてから頂上へ向つていましたが、我々は八千

米のサウスコルから直接頂上へのアタックで、途中の雪の状態や、思いがけない岩のぼり等で頂上着が遅くなりました。とにかく下りなければという事で下り初めま

なりました。途中、加藤隊員の酸素がなくなり、私のマスクから交互に吸い合い、南峰に六時着、ここに保存しておいた一本のボンベを加藤君にわたし下り続けました。

六時半ころにはあたりはくらくらなつてきたし、又、酸素もついに

はなくなつてしまひ、バッテリーも

も気温のせい、消耗がはげしくその上、酸素不足のせい、視

力が衰え、のぼりのトレースをさがしな

がしなから下りているつもりが、やはり少しトレースをはずれてい

たようです。何度もスリッパし

うになつたので、体力のことを考

えついに止むをえずチベット側に

切れおちた四十五度くらいの雪の

壁に、わずかに腰を下ろすだけの

ステップをきつただけでビバーク

をすることにしました。この頃です

今までは、いろいろなエピソードを

きながら、一杯やりたいですね。

石田 もっと時間をゆつくりと

つて、いろいろなエピソードを

きながら、一杯やりたいですね。

石田 もっと時間をゆつくりと

つて、いろいろなエピソードを

きながら、一杯やりたいですね。

石田 もっと時間をゆつくりと

つて、いろいろなエピソードを

きながら、一杯やりたいですね。

石田 もっと時間をゆつくりと

つて、いろいろなエピソードを

きながら、一杯やりたいですね。

石田 もっと時間をゆつくりと

つて、いろいろなエピソードを

きながら、一杯やりたいですね。

石田 もっと時間をゆつくりと

つて、いろいろなエピソードを

きながら、一杯やりたいですね。

石田 もっと時間をゆつくりと

つて、いろいろなエピソードを

きながら、一杯やりたいですね。

石田 もっと時間をゆつくりと

つて、いろいろなエピソードを

きながら、一杯やりたいですね。

石田 もっと時間をゆつくりと

つて、いろいろなエピソードを

きながら、一杯やりたいですね。

石田 もっと時間をゆつくりと

つて、いろいろなエピソードを

きながら、一杯やりたいですね。

石田 もっと時間をゆつくりと

つて、いろいろなエピソードを

きながら、一杯やりたいですね。

石田 もっと時間をゆつくりと

つて、いろいろなエピソードを

きながら、一杯やりたいですね。

石田 もっと時間をゆつくりと

つて、いろいろなエピソードを

きながら、一杯やりたいですね。

石田 もっと時間をゆつくりと

つて、いろいろなエピソードを

きながら、一杯やりたいですね。

石田 もっと時間をゆつくりと

つて、いろいろなエピソードを

きながら、一杯やりたいですね。

石田 もっと時間をゆつくりと

つて、いろいろなエピソードを

きながら、一杯やりたいですね。

石田 もっと時間をゆつくりと

つて、いろいろなエピソードを

きながら、一杯やりたいですね。

石田 もっと時間をゆつくりと

つて、いろいろなエピソードを

きながら、一杯やりたいですね。

石田 もっと時間をゆつくりと

つて、いろいろなエピソードを

きながら、一杯やりたいですね。

石田 もっと時間をゆつくりと

つて、いろいろなエピソードを

きながら、一杯やりたいですね。

石田 もっと時間をゆつくりと

つて、いろいろなエピソードを

きながら、一杯やりたいですね。

石田 もっと時間をゆつくりと

つて、いろいろなエピソードを

きながら、一杯やりたいですね。

石田 もっと時間をゆつくりと

つて、いろいろなエピソードを

きながら、一杯やりたいですね。

石田 もっと時間をゆつくりと

つて、いろいろなエピソードを

きながら、一杯やりたいですね。

石田 もっと時間をゆつくりと

つて、いろいろなエピソードを

きながら、一杯やりたいですね。

石田 もっと時間をゆつくりと

つて、いろいろなエピソードを

きながら、一杯やりたいですね。

石田 もっと時間をゆつくりと

つて、いろいろなエピソードを

きながら、一杯やりたいですね。

石田 もっと時間をゆつくりと

つて、いろいろなエピソードを

きながら、一杯やりたいですね。

石田 もっと時間をゆつくりと

つて、いろいろなエピソードを

きながら、一杯やりたいですね。

石田 もっと時間をゆつくりと

つて、いろいろなエピソードを

きながら、一杯やりたいですね。

石田 もっと時間をゆつくりと

つて、いろいろなエピソードを

きながら、一杯やりたいですね。

石田 もっと時間をゆつくりと

つて、いろいろなエピソードを

きながら、一杯やりたいですね。

石田 もっと時間をゆつくりと

つて、いろいろなエピソードを

きながら、一杯やりたいですね。

石田 もっと時間をゆつくりと

つて、いろいろなエピソードを

きながら、一杯やりたいですね。

石田 もっと時間をゆつくりと

つて、いろいろなエピソードを

きながら、一杯やりたいですね。

石田 もっと時間をゆつくりと

つて、いろいろなエピソードを

きながら、一杯やりたいですね。

石田 もっと時間をゆつくりと

つて、いろいろなエピソードを

きながら、一杯やりたいですね。

石田 もっと時間をゆつくりと

つて、いろいろなエピソードを

きながら、一杯やりたいですね。

石田 もっと時間をゆつくりと

つて、いろいろなエピソードを

きながら、一杯やりたいですね。

石田 もっと時間をゆつくりと

つて、いろいろなエピソードを

きながら、一杯やりたいですね。

石田 もっと時間をゆつくりと

つて、いろいろなエピソードを

きながら、一杯やりたいですね。

石田 もっと時間をゆつくりと

つて、いろいろなエピソードを

きながら、一杯やりたいですね。

石田 もっと時間をゆつくりと

つて、いろいろなエピソードを

きながら、一杯やりたいですね。

石田 もっと時間をゆつくりと

つて、いろいろなエピソードを

きながら、一杯やりたいですね。

石田 もっと時間をゆつくりと

つて、いろいろなエピソードを

きながら、一杯やりたいですね。

石田 もっと時間をゆつくりと

つて、いろいろなエピソードを

きながら、一杯やりたいですね。

石田 もっと時間をゆつくりと

つて、いろいろなエピソードを

きながら、一杯やりたいですね。

石田 もっと時間をゆつくりと

つて、いろいろなエピソードを

きながら、一杯やりたいですね。

石田 もっと時間をゆつくりと

つて、いろいろなエピソードを

きながら、一杯やりたいですね。

石田 もっと時間をゆつくりと

つて、いろいろなエピソードを

きながら、一杯やりたいですね。

石田 もっと時間をゆつくりと

つて、いろいろなエピソードを

きながら、一杯やりたいですね。

石田 もっと時間をゆつくりと

つて、いろいろなエピソードを

きながら、一杯やりたいですね。

石田 もっと時間をゆつくりと

つて、いろいろなエピソードを

きながら、一杯やりたいですね。

石田 もっと時間をゆつくりと

つて、いろいろなエピソードを

きながら、一杯やりたいですね。

石田 もっと時間をゆつくりと

つて、いろいろなエピソードを

きながら、一杯やりたいですね。

石田 もっと時間をゆつくりと

つて、いろいろなエピソードを

きながら、一杯やりたいですね。

石田 もっと時間をゆつくりと

つて、いろいろなエピソードを

きながら、一杯やりたいですね。

石田 もっと時間をゆつくりと

つて、いろいろなエピソードを

きながら、一杯やりたいですね。

石田 もっと時間をゆつくりと

つて、いろいろなエピソードを

きながら、一杯やりたいですね。

石田 もっと時間をゆつくりと

つて、いろいろなエピソードを

きながら、一杯やりたいですね。

石田 もっと時間をゆつくりと

つて、いろいろなエピソードを

きながら、一杯やりたいですね。

石田 もっと時間をゆつくりと

つて、いろいろなエピソードを

きながら、一杯やりたいですね。

石田 もっと時間をゆつくりと

つて、いろいろなエピソードを

きながら、一杯やりたいですね。

石田 もっと時間をゆつくりと

つて、いろいろなエピソードを

きながら、一杯やりたいですね。

石田 もっと時間をゆつくりと

つて、いろいろなエピソードを

きながら、一杯やりたいですね。

石田 もっと時間をゆつくりと

つて、いろいろなエピソードを

きながら、一杯やりたいですね。

石田 もっと時間をゆつくりと

つて、いろいろなエピソードを

きながら、一杯やりたいですね。

石田 もっと時間をゆつくりと

つて、いろいろなエピソードを

きながら、一杯やりたいですね。

石田 もっと時間をゆつくりと

つて、いろいろなエピソードを

きながら、一杯やりたいですね。

石田 もっと時間をゆつくりと

つて、いろいろなエピソードを

きながら、一杯やりたいですね。

石田 もっと時間をゆつくりと

つて、いろいろなエピソードを

きながら、一杯やりたいですね。

石田 もっと時間をゆつくりと

つて、いろいろなエピソードを

きながら、一杯やりたいですね。

石田 もっと時間をゆつくりと

つて、いろいろなエピソードを

きながら、一杯やりたいですね。

石田 もっと時間をゆつくりと

つて、いろいろなエピソードを

きながら、一杯やりたいですね。

石田 もっと時間をゆつくりと

つて、いろいろなエピソードを

きながら、一杯やりたいですね。

石田 もっと時間をゆつくりと

つて、いろいろなエピソードを

きながら、一杯やりたいですね。

石田 もっと時間をゆつくりと

つて、いろいろなエピソードを

君の、そして

我が息子の

行く道を考える

47回 風間 勳

(所詮は息子の自慢話じゃないか
と結論的にはそう受けてられるか
も知れない。)

私は昨年八月再び息子を羽田に
見送った。息子と共に親の私達も
躊躇したり迷ったりしながら、い
ろいろ考えた揚句、ニューヨーク
州立大学の大学院への道を私は我が
子の行く道として選んだ。

県高に入学するとスグに休学し
てアメリカの私立高校へ息子が留
学したのは附属中学時代英語を担
当して頂いたアメリカからの派遣
講師カッ先生との縁であった。

今でも続いているが某新聞社主
催の全国中学生英語弁論大会とい
うのがある。カッ先生のすゝめ
で、一年生の時と三年生の時と、
二回学校代表で出場し、二年生の
時は幸運にも全国第二位に入賞し
た息子は、既に帰国して居られた
カッ先生にその結果を報告したと
ころ、それ位の英語の力がつい
たのなら、招待するから一年間高
校留学に来ないかと思ひもかけぬ
お手紙を頂いた。但し日本の高校
の準備が出来ないからという期日
の指定があった。留学自体がブラ
スになることなかろうか、又留
学の時期を慎重に考慮をする必要
で、歴史というものを身をもって

知らない。それがそのま、日本
を海の向うから見る得難い機会と
もなった。在校生諸君も、父兄の
方にも、君達やご子弟がそういう
機会に恵まれたら、是非体験する
ことをお奨めすると同時に慎重な
検討とシッカリした心構えを呉れ
てほしい。

県高を終えて京大へ入った息子
は、学生運動の波にまきこまれる
こともなく四年生を迎えた。さて
社会へ直接出ることが息子にとつ
ては良いのか、あるいは大学院へ
残ることが良いのか。最終的には
本人がどの様に考えて居るかを、
本人がどの様に考えて居るかを、
(直接的に問い詰めるような方法
でなく) 知るのに皆が私達なりに
気がつかない。時代は変わり、若い
者は彼等なりの人生観があり、考
え方が異なる。たとえそれが私達親
のそれ等と相当異なるように思え
ても、先ず我々自身が反省し勉強
し、ある意味に於いては進歩しな
ければならないのではないだろう
か。

息子は大学院へ入りたいと言っ
た。親や人間は心配症であり、欲
の深いものであろう。大学院へ残
ることの方が息子の為に良い結果
になるのか。あるいは就職する方
か、親馬鹿はどっちころんでも迷
うものらしい。

然し事実は常に運命を伴う。息
子の方針も親の迷いも見事肩すか
しを食ひ、就職試験も拙って挑ん
だ大学院の入試に息子は失敗した。

長い学生生活の中でそれから暫
くが息子にとっては何か不安な日
々であったかも知れない。

「もう一年大学院入試を受けさ
せてもらいたい。その代り来年は
就職試験を受けて大学院入試に臨
み、再び失敗したらその時は就職
します……」という方針に私達は
些の異論もはさまなかった。子供
に対して親として為すべき務め、
許す限り本人の意見を尊重し、能
力と事情が許したらその時その時
本人が進みたいと思う道、親も亦
歩ましても良いと思つた道を歩か
せるようにしてやるのが、子供
にとつても一番幸せなのではない
だろうか、と考えるからである。

それが——就職、日本の大学院
受験の両方共やめて、ニューヨー
ク州立大学の大学院に助手に採用
するという形で入学することになつた
のは、次のような経緯の結果であ
つた。

敢えて留年しても大学院を受験
する同級卒業生が余りにも多いこ
と、更には、いわゆる「博士浪人」
がダブつている日本の現状、前
記エバリー氏やハーマン・カーン
博士との親交によるつながりで、
留学後の便が整う見通しが出て来
たこと、幸い州立大学の入学試験に
合格したこと、前回留学の時の先
生方やスカガード氏を始めとする
知己の方々が、悦んで再び迎えて
くれる数々の具体的厚意を寄せ
て下さったこと——広い未知の世
界への出発に、そうした人達の困
縁と善意が、息子の方針を再度変
え、私達の考え方も再度同調させ
るようになったので、
単なる留学への憧れに迷つたので
なく、日本の大学院に残つた場合
の将来、或いは若者が賭ける夢に
挑戦させてやる、実現への可能性
の率、それぞれの立場でお互いに
湯沢を選んだ。

集まるもの三十人、卒業時の担
任であった木村晋先生(味方村長)
のご出席をいただいた。遠路はる
がる組は北は旭川の山川(早見)
久明君、南は福岡の吉沢統君。い
ずれもまさに三十年ぶりの総会出
席だった。信州諏訪からは平沢正
弘君が駆けつけた。

当日午後の新潟市は暴風雨で交
通渋滞、さらには連絡の行き違い
があつて、上村、熊木の両幹事と
も予定の列車に乗れず、兩名青く
なったが、そこはチームワークの
妙、高橋忠行、堀信誠君らが早速
幹事代行で部屋割りから会合準備

どうい道を選び選ばせることが
少く共現在の時点が一番妥当な良
いことなのかを考へて出て来た結
論が一致した。

子にける夢が私に全く無いと
言はば嘘になる。唯、無情に留
学したがったり、現実ばなれをし
た夢を追いつけるようなことは
私達の場合には無かつたような氣
がする。

斯くして息子は再びアメリカへ
発つた。

甘やかしてもなく、教育ママ的
でもなく、しかし息子が歩きたい
と考へた道、そして親の私達も
歩かせてやつても良い、歩かせる
事が良い……と結論を出した道を、
経過的には息子の言いなりに歩か
せて来たようである。

しかし息子は結構大人になれた
し、大人になつたように思ふ。見
方によつては、明治・大正に生を
までトントンと仕上げました。

会食は本井文哉君(海兵)ら先
に行つた諸君をしのび、木村先生
の講義をまじえてすべり出したが
さて会はずはたちまち、頭の白きも
薄きも、一様に紅顔の少年(美と
は書かない)に早変わり。昔の珍
芸、悪行の復習となつた。少数な
がら確保しておいたつもりのお酌
さんが、他の座敷に迷いこんで現
われず、代わりに女中さんが助け
てくれる気配だつたのにこれも期
待はずれ、というハッピングがあ
つたが、それも雑音なしてかえつ
て可と慰める人ありの和氣あいあ
い。遠来組が首頭をとつて応援歌

うけた人達よりも、より近代的に
大人になつた。

息子と共に私達も選んだ道が本
人の為により幸せな妥当な道にな
り得るかどうかは、当然全く未知
数である。でも良く考え、よく話
し合い納得し、将来の方針や対策
も変化に即応して検討し、そして
結論を出したのだからこれ以上如
何ともし難いし、あとで後悔はす
まいと思ふし、しないで済むよう
に経過して欲しいと願つている。

これから自らの行く道を決めよ
うとする在校生諸君、そしてその
父兄の方々に、今更アドバイスの
必要など毛頭あるまいと思ふが、
何か参考になることでもあればと
思い、親馬鹿の評を覚悟の上で敢
えて一文を書いた次第である。

から校歌と続く。

果ては「団体さま用の部屋に
戻り、雑魚寝の布団をまくり上げ
て第二次回。昔のおしゃべり少
年はやはりおしゃべり、静かなる
男は静かなままに、午前二時ころ
まで続いた。(徹マンもあつたら
しい)

翌朝は流れ解散。だがお互いに
別れがたくてか、予算の使い残り
消化をかねて第三次回となつた。
次から次へとカンパが出るので
話もつきぬが、液体も尽きること
がない。おりから窓外に雪降りし
きり、満山真つ白。これがこの年
湯沢の初雪であつた。

三十周年の 特別集会

五十 回生

青山五十回生の昭和四十八年度
総会は、卒業二十周年特別総会と
いうタイトルをつけて、十一月十
七日(土曜)午後七時から、湯沢
温泉高半ホテルで開いた。新潟と
東京の中間でやろう、わずかの金
でも、使うならば新潟県内に落
せという郷土愛で、水上において

自然ゆたかな国

カナダ

67回 山田紀子
(旧姓杉本)

カナダという国は、日本人にとってそれ程なじみのある国ではないと思います。何となくアメリカの北にある寒い国というイメージしかないと思います。そのカナダのモントルオールには夫と子供達と共に2年間通す機会を得ましたので、その間に見聞したことを綴ってみました。カナダは広大な国土を持つ国です。面積はソ連に次いで世界第二位ですが、人口はわずかに二六〇〇万位です。狭い国土に一億以上の人々がひしめいている日本とは雲泥の相違です。その上今世界で問題になっている資源も、石油・ウラン・鉄、それに木材や水力も豊富です。

私達の住んでいたモントルオールは人口二二〇万、E X P O 67として、又再来年に予定されているオリンピック開催の都市として知られていますが、街はセントローレンス川中にある、大きい島の小さい丘を中心として発展した非常に美しい都市です。公園は街のあちこちにあり、そこは野生のリスが走り廻り、基盤の目のように整然と区画された、広い道路の端に街路樹が茂って、大変緑が多く、日本の都市とは大違いです。その

中が静かになった程です。カナダは最初フランス系の人々により植民され、後にイギリス領になった関係から、全人口の六十%はイギリス系、三十%がフランス系、残りが他の民族となっています。そのため公用語は英仏二ヶ国語で、公文書や紙幣も二ヶ国語で印刷され、航空機内の案内放送も英仏語でくり返えされます。フランス系の人々は大部分がケベック州に住んでおり、モントルオールはその中心です。街ではフランス語が主として使われ、フランス系の美人がニューファッションで街を歩いています。又ヨーロッパ各地やカリブ海の国々からの移民が多く、そのため国際色が豊かで、人種の偏見はほとんどありません。

西欧の他の国でも同じことと思いますが、子供に対するしつけは非常に厳しく、子供に甘い日本人

家族がカナダに来て、一番始めに恥をかいたのはこの点です。日本は子供にもっと厳くすべきだと痛感しました。外国人は一般にパーティが好きで、週末になると人を呼んだり、呼ばれたりしますが、その時は子供は除外され、ベビシッターに預けられます。ベビシッターは主としてハイスクールの女生徒の仕事で、一時間一ドル位でやっています。又小学校でも宿題を忘れた子供は、一日中立たされたりしています。

カナダは未だ若い国です。技術のある人の移民を歓迎しています。私ももう少し若ければ永住したいと思いましたが、若い人は技術を身につけた上に、英会話を勉強してもっとどしどしカナダに渡った方がよいかと思えます。狭い日本よりも広大な国土の自然に満ちた近代国家での生活も楽しいものです。

さしく20年振りに出逢ったユニフォーム姿であり、投球であった。もはや雄姿にはほど遠かったが、私の心は、遠い野球部員時代に一気に引き戻され、そしていいしぬ激情が込み上げて来た。この日を契機にして、眠っていた私の野球魂が目覚め、母校のグラウンドへ、その応援にと通うようになった。その応援に、しかも真摯に練習に打ち込む部員は、勉強との両立に悩みながらも、それにも増して野球の魅力にとりつかれてしまった。青春群像なだろう。伝統ある野球部の歴史の中、痛恨の一事は、誰も未だ甲子園出場の花光を捉え得なかったことだ。甲子園の土を踏みたい、踏ませたい。アルプススタントに翩翩と我が校旗と応援旗をひるがえしたらとの、幾世代の人々の願望はその度に潰えて来た。校庭を取り巻くポプラの樹々は、グラウンドの土は、その悔しさと、汗と願いを知っている。じつと耐えて見て来た。今も……)

そんな感激をしきりにもようす頃、炎天下の7月予選が始まった。小出高、新発田商高を撃破し、ベストエイト進出への足掛りとなる対南高戦で、母校は延長10回1対2と接戦ではあったが敗退してしまった。嗚呼！又しても奇跡は起らなかったのだ。

一緒に泣く時は泣け。そうでなければ強くはなれん。スタンドで肩を落し凝然と立ちつくした、嘉村コーチが呻いた。

この大会には全国二、六六〇校が参加し、内甲子園への出場校四八校と聞く。県大会には、校が参加し、糸魚川商工が記念大会により県代表として甲子園に駒を進めた。

江川ブームで沸く甲子園の熱狂をよそに、野球部は敗戦の痛手を乗り越えて、秋の北信越大会を目標に練習を始めた。好漢小亦、小川の三年生二人はこの大会を最後に部を去ったが、県下屈指の好投手渡辺・竹内・強肩強打の瀬倉捕手、そして近年稀な鉄壁の守備陣を誇る内野手と正選手7名が夏の大会の貴重な経験を味わって来た。控の選手層も厚みを増して来た。この強味と、我が野球部に江川は無いが、チームワークと総合力で敵を倒すのだとの意気込みが、北信越大会での県予選に於ける二十一年振りの決勝戦という快挙を成しとげた。敬和、南高、市工、新津、小出、芝農の各校を連破し、新発田球場での決勝戦では長岡商業に〇対一と敗れはしたが、その戦績は誠に見事の一言に尽きる奮戦振りであった。

就中、9回裏2アウト1対2とリードされ、ランナー三塁に置いてはいたが、宿敵南高戦で絶対絶命の危機に、相手投手のボールにより同点となり、延長14回、3対2とこれを葬った試合は、多くの

人々の記憶に永く止められるべき名試合であった。

私は今ここで、甲子園出場への確かな萌芽が我が野球部に育ちつつあることを感じる。先達が手の中に出る得なかった「甲子園の土をしっかりと踏んだ」という輝やかな「青春の矜持」が白球を追う若者達に訪れる日は近い。

このチームは非力な選手ばかりだったので昨夏以来、先輩諸氏の熱心なコーチと激励とによって、次第に力をつけるとともに、持てる力を十分發揮しうる根性がうえつけられたように思います。先輩諸氏にお礼を申し上げるとともに今後共、激励を賜わりとう存じます。

本校教諭
野球部監督
62回 田村 誠一

甲子園への道

61回 渡部 稔

全国高校野球選手権大会が近づき、新聞に各地の予想記事が掲載され始めた夏の日、球友小島汎君から連絡があった。「田村監督から後輩を激励してくれないかと頼まれた。どうだ一緒に……」と。炎暑のグラウンドで彼は若い部員

を相手に、バッティング投手を務めた。(20年前の夏の大会県下優勝投手。女房役の捕手が私、長岡高校を下し優勝決定の瞬間、我々はマウンドの彼を目掛け駆け寄り、誰彼となくしつかり抱き合い握手を合した。)それは卒業以来ま

山岳部OB新年会

恒例は2日であったが、今年是我らが仲間石黒久君の壮筆のテレビ報道番組が2日夜放映されたので、会は3日で行われた。場所は同じく古町八の天龍、約二十五名の参加を得て、ひとしきり、エベレスト及び、石黒君の事が話題の中心となった。今年も現役の一年生に多数入部を見たことを互いに喜び合い、彼らに手助けをして育ててゆく方法なども語られたり気楽にして、有意義な一夕であった。又来年の再会を約して散会したのは九時近かった。

柔道部 後援会の記

40回 小島松一

紅顔の若人も今や白髪に変わり、還暦を迎えんとしている。

在校時代に果せなかつた全国制覇の夢を後輩に托し、後援会を設立して味方村吉江の高念寺(故広川智恩七段)に合宿をし、心を磨き業を練つてから早くも四十年は過ぎた。脈々と流れる青山柔道部の伝統は県内での優勝は勿論、全国制覇の偉業も成し遂げ、柔道王国新潟中学校(現新潟高等学校)の名を全国に馳せたもので、今も生き続けていると信じて疑わない。

二十一年に復員した私は、母校の荒廃した道場に立ち、往年の先輝燦たる柔道部を忍び一日も早く復活して嘉納先生の遺訓「精力善用と自他共栄」の精神を体し、後輩の練磨と人格形成にあたるべく、窓ガラス等修理の準備を始め、当時磯校長先生は「武道は警察がやかましいので遠慮するよ」に、「...」とお話があり、張切つていた私は茫然自失の感に打たれた。在校生で福田満君(五八回)が熱心に柔道をやっていたのが印象的であった。

二、三年後高校柔道がやれるような情勢になつたので柔道教師の予算獲得の為、県庁に鈴木精一保健体育課長を訪問してお願いした

と、今ほそういう種類の予算はないので正規の高校教員の資格がなければだめだ。とことわり、意を決し、磯校長先生にお願ひして御理解をいたし、逸早く高橋是成君(四六回、全国優勝)を母校に迎え、後援会としては、先づ柔道部の寄贈に骨を折り、高橋先生は柔道部に流れる不撓不屈の敢闘精神と人格陶冶をめざして後輩育成に心血をそ、がれ、三十七年県下で優秀な成績を納め、県代表として遂に全国高等学校柔道大会に駒を進めたのである。

二十九日四月、母校の火災で我々の心の頼りどころであり、歴代部員の汗が込み込んだ道場も灰燼に帰し、四十四回の柔道部諸君が十二年全国大会決勝戦で受賞品として得た名誉ある銅板の嘉納師範像の額を当時のマネージャー山口隆夫君(六三回)が焼跡より探し出し、高橋先生がひどい傷の額を原氏(柏崎市・日展無鑑査)に依頼し、裏面より銀で修復復元して、四十四年に母校へ寄贈し、今も道場に燦然として歴史を物語っている。

え、後援会総会が開催された。小山正道会長(二二回)を始め、約八十名が一堂に会し、母校に立川克雄君(新六回)を迎えたのを機に、我々の柔道部を如何に再興すべきか熱心な討議がなされた結果、恒久対策として基本金を募集する事に決定した。当日来賓の島津・木村・鶴巻先生を交え、白髪や禿頭の老先輩も若人に交り、同じ話題を歓談し、大笑し

還暦祝賀 青山三八会

盛会裡に挙る

三八会員(昭和六年卒)に対し、八月次の如き案内状が配布された。「今年には全会員が還暦を迎え、人生における記念すべきおめでたい年でありますので、在京会員と合同で左記により盛大な懇親と祝賀の会を開こうということになりました。ついてはこれまで全然顔を出されたことのない方々も、四十余年前の中学時代に立ちかえつたつもりで、お集り願ひたいものであります。皆様の格別のご賛同をお願い申し上げます。

- 一、日時、十月十三日(土)午後四時参集
- 二、会場、越後湯沢の湯沢グラウンドホテル
- 三、会費、五千円(泊一食、酒一本つき、税金その他)

後に慶賀の紹介として同席中の山田重平君(東大地震研究所)が地震予知に関する論文で理学博士になつたお祝を述べた。次に東京地区世話係の河内直治君より挨拶、山口五郎久長幹事よりは会務報告と諸注意があり開宴となる。駒子の後輩美人十名お酌する中で自己紹介が始まつた。なに分四十余年目の再会も多いので「あれが○○君か、いや変つたもんだてば...」とあちこちでささやきが聞こえる。さすがに還暦ともなればきれいに仕上げ上つたのあり、白髪あり、六〇年の苦労のシワの刻みこまれたものありで...まあ写真でご覧下さい。

切を含む超特別奉仕価格。酒、ビール、女性等宴会費がいかにオーバーしても一切追加徴収はいたしません。これにより集るもの県内二十六名県外十一名、計三十七名、決して多いとはいえないが、新顔の初参加も数名あつて皆を喜ばせてくれた。

一風呂浴びて丹前に着かえ五時広間に集合、かねて配布の宴会次第に従つて、先ず物故会員に対する黙祷、続いて新潟幹事近藤園君の挨拶は「還暦所感、母校の現状として青山会館建設、秋道入歌碑建立、インターハイ出場は陸上競技、バスケットボール、硬式テニス、バドミントン、フェンシングと大量参加等に関して話し、最



(近藤園記)

楽しかった

48期会

48回 大塚進弥

毎年十一月の第三土曜日に定例開催される吾が四八期会は、恒例により十一月十七日(土)午後六時半より大川端生粋に於て開催された。

当日は今までにない寒い日であり、又風雨のはげしい悪天候であったが、当日の取り消しは僅か二名のみで、総勢 四名の出席をみた。特にこの日のために西の宮より山口君(昭和石油)がかけつけたのを始めとして、白根の五十嵐一之君(歯科医) 戸川喜代一君(建設省) 都築弘君(サンケイ新聞支局長)、葦木義雄君(農林省)などの新顔が見え、場内は開会前より昔話に花が咲いておった。

今回は特に先生をお招きしないで、同期生のみのお会合として、大いに談論風発し、又美人を加えて盛大にやろうとの幹事の打ち合せにより、プラン通りの楽しさいっぱい同期会であった。大橋君の開会のことば、小生の四八期の現状及今回の趣旨の説明、そして会場設営に努力した水戸君の乾杯より会は始まった。まず最遠路参加の山口君が再び乾杯の音頭をとつてから、その後自己紹介に移つた。いつも会に出席している人はいいて同期生の消息は分つてお

るが、久方ぶりに出席された連中には、最も興味ある話である。最近の自己紹介も自分の現状報告より、家族、特に子供のことを中心となり、何名子供がおるとか、娘がいくつで、目下ムコさんを探しておるから協力をたのむとか、セガレによい花嫁を世話して欲しいと云つたホームニュースが多く、お互に年をとつたなあ、もうすぐおじいさんか、と未だ青年の気持ちでおるのに、うつすらのさびしい。これから同期生がお互いに仲介をしたり、親類になることもあるなあ、ほほえましく感じられた。

今回の協議事項として、次の事が話題の中心となつたので、当日出席された方々に紙面を利用してお知らせしたい。

(1)いつもお医者さんのお席は多いのに、坊さんは一人も出席しない。同期の坊さん各位、いづれお世話になるのだから、来年からは非出席される様要する次第です。

(2)東京の同期生の方々から多く出席してもらうために、東京と新潟の中心地、水上か湯沢あたりで開催してみても面白いと思う。これは定例日の変更もあり得ると思う。

(3)来年度は中野正之先生(通称カタキン、淡路島出身で地歴を担当しておられた)をお招きしてご出席を願う。中野先生は吾々が二年生の頃、高師を卒業されて着任されたのが、新中であり、最初に授業を持たれたのが吾が期であつたと思う。常に肩をいかりしておられたが、極めて正義感が強く、おこる時は真からその生徒の為を考えておこられるので、後味がサツパリしており、独特のムードがあつて、最も尊敬しておつた先生のお一人である。新中より関西の方へ移動されたことであり、幸に関西より山口君が出席されたので、先生の勤務された鴨折高校が亀岡高校へ照会して戴くことと決定した。数日後山口君より両校共過去の名簿にも該当がなく、要領を得なかつたのお便りがあつた。若し先生の住所やご近況をご存知の方がおられたら、小生が同窓会の岩田さんへお知らせ下さい。

設定の時間も、酒も大部超過して、大いに氣勢を上げ、校歌・応援歌を高らかに、何度も「歌い、解散したのは九時近かつたが、楽しい本年の同期会であつた。尚受けに大橋、五十嵐、本間君が同窓会会費をお願いしたところ、未納であつた方々が、そくざに納入され、一万二千円が集まつたが、真に感謝にたえない次第である。

MUZOU会(60回)

始末記

新潟・東京合同で第二回

MUZOU会(右象無象)六十にひつかけた)第一回合同大会は、晩秋の十一月十七日、長野県戸倉上山田温泉の戸倉ホテルで盛大に開催された。第一回が四十七年四月、卒業一〇周年を記念して、湯沢温泉で開かれた時にくらべ、参加者数において、や、淋しいものがあつたが、名幹事役金山の献身的努力と、東京・新潟それぞれの幹事の協力により、恩師側から齋川・渡辺・三浦・菅原・大橋

(續)の五先生、新潟側より、岩谷・小林(庄)・小林(章)・小林(智)・戸川・山崎(良)・山崎(肇)・橋本・田中(龜)・熊田・浜田の十一名、東京側より、中山・小池・水野・齋木・高野・金山・切貫・鈴木(章)・金子・高山・杉野・千葉・池浦の常連組と初参加り豊岡を加えて十四名、他に地元長野勤務の宮田、高山勤務の内山と総勢三十二名の参加となつた。当日は折悪しく日本海側



の季節外れの強風により信越線の延着があつて、開会が予定よりおくれ、六時四十分、幹事を代表して、池浦(東京)・小林章(新潟)の挨拶を皮切りに大会の幕あけとなつた。幹事より「MUZOU会」命名の経緯を説明、満場一致で承認、恩師側の近況報告、物故十級友に対しての一分間の黙とうと続いた。恩師の中では、四十七年の第一回に病氣欠席された齋川先生の往年の元気をとり戻された姿に、に再会を喜び、懐旧談に花を咲か

せる一団が次々と出現し、旧制・新制の両方にまたがり、六年間同じ屋根の下で遊学した同級意識が一筆にたかまり、将に六〇回をたがへの熱気が会場に満ちあふれた。やがて九時少し前、これ又、戸倉温泉に会場設営の一つの目的である御当地名物、御座敷ショ一の鑑賞の時間となつて、会最高調に達し、目の前にくりひろげられる追真の演技に、手にとる杯もしばし忘れる始末、男真利につきる一時であつた。芸妓連中の再登場等、設営係苦心の演出の中に信州の夜は更けゆき、十時四十五分、お互い語りつきな感みを残しつつ、全員起立、校歌「玲瓏の天」を斉唱して宴の幕を閉じた。

翌朝は、昨夜の閉宴後の自由行動の結果報告を期待した向もあつたが、特に発言者もなく「沈黙は金」の諺に忠実に従つたためか?一年一回の大会は、東京・新潟交互の幹事で計画する事及び青山同窓会の会費払込励行を申し合わせ、それぞれの帰途についた。

尚今回の大会に際し、寄附をよせられた、止むを得ず欠席の四〇名の同級諸兄及び新潟(八郎津古(六一期渡辺君経営) 毎度の事乍ら、連絡手続に御苦労いたつた金山、新潟側幹事の両小林、東京側出席者の切符手配に尽力願つた国鉄の杉野、会場の設営演出にあたられた高野・斉木の諸兄に、紙上を通じてあらためて御礼申し上げます。(文中敬称略)以上。

幹事 池浦厚司

昭和48年度青山同窓会費納入者 (4月より12月まで納入済のもの)

未納の方は3月までに納入下さるようお願い致します。

Table with 10 columns and multiple rows listing names and family names of members who have paid their dues for the 48th year of the Seishin Alumni Association. The names are arranged in vertical columns, with family names on the left and given names on the right.